

令和2年度(2020年度)用

中学校保健体育用

「新編 新しい保健体育」 臨時休業明けの年間指導計画参考資料

(学校での授業と、学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版)

【2年】保健編3章『傷害の防止』

各学校の状況によって、年度当初に予定していた学習内容の指導を、本年度中に終えることが困難な場合に、学校における学習活動を重点化する際の参考資料としてご活用ください。そのうえでなお、学習内容を年度内に終えることが困難な場合は、内容の一部を次学年等に移して指導することも考えられます。各学校の状況に応じて、適切にご判断ください。なお、次学年等に移して指導する場合には担当教員間の引継ぎにご配慮ください。

令和2年(2020年)6月版

※单元ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。
ご了承ください。

東京書籍

保健編 3章 傷害の防止

第2学年 教科書p.63-92 配当授業時数：10時間

取り扱いの考え方

◎指導順について

内容のまとめり	単元計画配当	指導順について
①交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	第1時～第2時	必ず単元の最初に取り扱う。
②交通事故などによる傷害の防止	第3時～第4時	第3時，第4時は指導順変更も可。
③自然災害による傷害の防止	第5時～第6時	③内では教科書通り指導する。
④応急手当	第7時～第9時	第7・8時，第9時は指導順変更も可。
その他（確認の問題・活用 の問題，学習のまとめ等）	第10時	順序を問わず，①～④と関連させて取り扱う。

◎学校の授業及び学校の授業以外の場での取り扱い

学習内容や学習活動に応じて，取り扱いを判断することが望ましい。指導計画例の「ページ・小単元」「学習内容と活動」の欄に以下の記号を示す。なお，本単元においては，年度当初に10時間で計画していたものの，時数確保が困難な場合，学校の授業以外の場での学習を関連付けることにより，6時間で進めることも可能であることを示している。

分類	学習内容や学習活動の別	時間数
学	教師による適切な指導が必要な内容や，話し合い・実習などが必要なもので， 学校での指導が望ましいもの。	6
▲	学校での指導が望ましいが，学校の指導計画や実施できる時間数によっては， 学校の授業以外の場での学習が可能なもの。	4

傷害の防止

教科書 p.63-92

■学習内容■

学習指導要領の内容のまとめり

(7). 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因
交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(4). 交通事故などによる傷害の防止
交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(7). 自然災害による傷害の防止
自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(I). 応急手当
応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。

教科書の内容(小単元)

- 1 傷害の発生要因
- 2 交通事故の発生要因
(2時間)

- 3 交通事故の危険予測と回避
- 4 犯罪被害の防止
(2時間)

- 5 自然災害による危険
- 6 自然災害による傷害の防止
- 7 共に生きる〈発展〉
(2時間)

- 8 応急手当の意義と心肺蘇生
- 9 けがの応急手当
(3時間)

(その他1時間, 全10時間)

■章の目標■

○総括的な目標

傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

○評価の観点に即した目標

- ・ 傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- ・ 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項およびそれらと生活との関わりを理解できるようにする。
(知識・理解)

■評価規準の例■ (国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成のための参考資料」より作成)

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
章の評価規準	傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項およびそれらと生活との関わりを理解している。
学習活動における具体的な評価規準	<p>①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>②傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>①交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②交通事故などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>④応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>

■指導計画例■

※【評価の観点】の丸数字（①，②…）は，■評価規準の例■の丸数字に対応しています。

※ [評価場面：活動]の数字（1，2…）は，学習内容と活動の数字に対応しています。

(7). 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因

ページ 小単元	学習内容と活動	評価の観点と方法（本時のおもな評価）
<p>第1時</p> <p>P. 64 ～ P. 65</p> <p>1</p> <p>傷害の発生要因</p> <p>学</p> <p>▲</p>	<p>＜本時の目標＞</p> <p>交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因，環境要因およびそれらの相互の関わりによって発生すること，人的要因としては，人間の心身の状態や行動の仕方について，環境要因としては，生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。</p> <p>1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。 ▲</p> <p>2 「やってみよう」資料1のグラフを見て，中学生の死亡原因にはどのような特徴があるか考え，ノート等に記入する。 ▲</p> <p>3 資料2等をもとに，中学生の傷害の現状について調べ，発表し合う。 学</p> <p>4 資料3をもとに，傷害が起こる要因について整理し，説明する。 学</p> <p>5 「考えてみよう」学習したことを活用し，例1～3について，事故や傷害が起きた人的要因と環境要因を考え，発表する。 学</p> <p>6 本時の学習をノート等にまとめる。 ▲</p>	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度①</p> <p>傷害の防止について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[評価場面：活動2，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】思考・判断②</p> <p>傷害の防止について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見つけたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>[評価場面：活動5，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】知識・理解①</p> <p>交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり，書き出したりしている。</p> <p>[評価方法：ノート等への記入状況，小テストや章末テスト]</p>
<p>第2時</p> <p>P. 66 ～ P. 67</p> <p>2</p> <p>交通事故の発生要因</p> <p>学</p> <p>▲</p>	<p>＜本時の目標＞</p> <p>交通事故などによる傷害は，人的要因，環境要因およびそれらの相互の関わりによって発生すること，人的要因としては，人間の心身の状態や行動の仕方について，環境要因としては，生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。</p> <p>1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。 ▲</p> <p>2 「やってみよう」資料1を見て，中学生の交通事故にはどのような特徴があるか考え，ノート等に記入する。 ▲</p> <p>3 資料2等をもとに，交通事故の人的要因，環境要因，車両要因について調べ，発表し合う。 学</p> <p>4 資料3等をもとに，自転車の特性と注意点に</p>	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度①</p> <p>傷害の防止について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[評価場面：活動2，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】思考・判断①</p> <p>傷害の防止について，健康に関する資料等で調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり，選んだりするなどして，それらを説明している。</p> <p>[評価場面：活動6，評価方法：教師の</p>

	<p>ついて話し合う。学</p> <p>5 資料4～6等をもとに、自動車の特性と注意点について調べ、整理する。学</p> <p>6 「考えてみよう」学習したことを活用し、事故例の人的要因と環境要因を考え、発表し合う。学</p> <p>7 本時の学習をノート等にまとめる。▲</p>	<p>観察、ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】知識・理解①</p> <p>交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>[評価方法：ノート等への記入状況、小テストや章末テスト]</p>
--	--	--

(イ). 交通事故などによる傷害の防止

ページ 小単元	学習内容と活動	評価の観点と方法（本時のおもな評価）
<p>第3時</p> <p>P. 68 ～ P. 69</p> <p>3 交通事故の危険予測と回避</p> <p>学</p> <p>▲</p>	<p><本時の目標></p> <p>交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。人的要因に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備、改善をすることがあることなどについて理解できるようにする。</p> <p>1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。▲</p> <p>2 「やってみよう」イラストから、Aさんの危険について人的要因と環境要因から考え、予測する。▲</p> <p>3 交通事故による傷害を防ぐためには、危険を予測し回避する必要があることを整理する。学</p> <p>4 「考えてみよう」学習したことを活用し、例1～3について、予測できる危険と回避の方法を考え、発表し合う。学</p> <p>5 資料1等を参考に、歩行者の安全や快適性を重視した交通環境整備の例について話し合い、整理する。学</p> <p>6 本時の学習をノート等にまとめる。▲</p>	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度②</p> <p>傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[評価場面：活動2，評価方法：教師の観察、ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】思考・判断②</p> <p>傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>[評価場面：活動4，評価方法：教師の観察、ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】知識・理解②</p> <p>交通事故などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>[評価方法：ノート等への記入状況、小テストや章末テスト]</p>
<p>第4時</p> <p>P. 70 ～ P. 71</p> <p>4 犯罪被</p>	<p><本時の目標></p> <p>犯罪被害による傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。</p> <p>1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度①</p> <p>傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[評価場面：活動2，評価方法：教師の</p>

害の防止 学 ▲	▲ 2 「やってみよう」資料1を見て、小学生や中学生は、どのような場所で犯罪の被害に遭っているのか考え、ノート等に記入する。▲ 3 資料2等をもとに、犯罪を防ぐための3要素について調べ、発表し合う。学 4 資料3等をもとに、犯罪被害の人的要因とその対策について調べ、整理する。学 5 資料4等をもとに、地域の安全について話し合い、整理する。学 6 「考えてみよう」学習したことを活用し、絵を見て、犯罪被害を予測し、回避する方法を考え、話し合う。学 7 本時の学習をノート等にまとめる。▲	観察、ノート等への記入状況 【評価の観点】思考・判断② 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 [評価場面：活動6，評価方法：教師の観察、ノート等への記入状況] 【評価の観点】知識・理解② 交通事故などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 [評価方法：ノート等への記入状況、小テストや章末テスト]
----------------	---	--

(ウ) 自然災害による傷害の防止

ページ小単元	学習内容と活動	評価の観点と方法（本時のおもな評価）
第5時 P.72 〵 P.73 5 自然災害による危険 学 ▲	<本時の目標> 自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などによる二次災害によっても生じることが理解できるようにする。 1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。▲ 2 「やってみよう」資料1の文章を読んで、大きな地震が起きるとどのような危険が生じるのか考え、ノート等に記入する。▲ 3 資料1，2等をもとに、地震の一次災害について調べ、発表し合う。学 4 資料3等をもとに、地震の二次災害について調べ、発表し合う。学 5 読み物「釜石の防災教育」から、二次災害についての知識や避難の必要性について話し合う。学 6 本時の学習をノート等にまとめる。▲	【評価の観点】関心・意欲・態度① 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 [評価場面：活動2，評価方法：教師の観察、ノート等への記入状況] 【評価の観点】知識・理解③ 自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 [評価方法：ノート等への記入状況、小テストや章末テスト]
第6時 P.74 〵 P.75	<本時の目標> 自然災害による傷害が災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることから、その防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこ	【評価の観点】関心・意欲・態度① 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的

<p>6 自然災害による傷害の防止 学 ▲</p>	<p>と、地震などが発生したときや発生した後、周囲の状況を的確に判断し、冷静・迅速・安全に行動すること、事前の情報やテレビ、ラジオ等による災害情報を把握する必要があることを理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。▲ 「やってみよう」自分の家庭や学校、地域では、地震などの自然災害に対して、どのような備えをしているか、ノート等に記入する。▲ 資料1等をもとに、地震が発生したときの行動について調べ、整理する。学 「考えてみよう」学習したことを活用し、絵のような場面で地震が起きたとき、どのような行動をとればよいか考え、発表し合う。学 資料2、3等をもとに、災害時の情報の種類や、情報活用の必要性について調べ、発表し合う。学 本時の学習をノート等にまとめる。▲ 	<p>に取り組もうとしている。 [評価場面：活動2，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】思考・判断① 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 [評価場面：活動4，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】知識・理解③ 自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりにしている。 [評価方法：ノート等への記入状況，小テストや章末テスト]</p>
---------------------------------------	---	--

(I). 応急手当

ページ 小单元	学習内容と活動	評価の観点と方法（本時のおもな評価）
<p>第7時 第8時 p.78 ～ p.83 8 応急手当の意義と心肺蘇生 学 ▲</p>	<p><本時（2時間）の目標> 傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当としては、傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に、周囲の人への連絡、傷害の状態に応じた手当が基本であり、適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。 心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの心肺蘇生法を取り上げ、実習を通して理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。▲ 「やってみよう」絵のような場面に直面したらどうしたらよいか考え、ノート等に記入する。▲ 資料1や p.79 読み物「応急手当によって救われた命」等から、応急手当の意義について整理する。▲ 資料2や本文等をもとに、心臓や肺が停止した場合の応急手当の意義について整理する。▲ p.80～83 等をもとに、心肺蘇生法の手順や胸骨圧迫のポイントを整理する。学 心肺蘇生の実習を行う。学 「考えてみよう」実習を振り返り、①～③について考 	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度① 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 [評価場面：活動2，評価方法：教師の観察，ノート等への記入状況]</p> <p>【評価の観点】思考・判断① 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 [評価場面：活動7，評価方法：教師の観察，ノート等</p>

	<p>え，整理する。学</p> <p>8 本時の学習をノート等にまとめる。▲</p>	<p>への記入状況]</p> <p>【評価の観点】知識・理解④ 応急手当について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 [評価方法：ノート等への記入状況，小テストや章末テスト]</p>
<p>第9時</p> <p>P.84 ？ P.85</p> <p>9 けがの 応急 手当</p> <p>学</p> <p>▲</p>	<p><本時の目標></p> <p>応急手当は，患部の保護や固定，止血を適切に行うことによって傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。</p> <p>1 「今日の学習」本時の学習の見通しをもつ。▲</p> <p>2 本文等から，出血の応急手当の意義について調べ，直接圧迫止血法の目的とポイントを確認する。▲</p> <p>3 本文等から，骨折の応急手当の意義について調べ，包帯法の目的とポイントを確認する。▲</p> <p>4 直接圧迫止血法を実習する。学</p> <p>5 包帯法を実習する。学</p> <p>6 本時の学習をノート等にまとめる。▲</p>	<p>【評価の観点】関心・意欲・態度② 傷害の防止について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 [評価場面:活動4・5，評価方法:教師の観察]</p> <p>【評価の観点】知識・理解④ 応急手当について理解したことを言ったり，書き出したりしている。 [評価方法:ノート等への記入状況，小テストや章末テスト]</p>
<p>第10時</p> <p>学</p> <p>▲</p>	<p>この時間は，教科書 p.90-93の「確認の問題」「活用の問題」「学習のまとめ」，p.76-77「共に生きる」などに充てる。学 ▲</p>	